

平成24年度
実施事業

事務事業名	敬老会補助金
-------	--------

区分	No	名称
章	1	やさしさと共生するまち
節	3	誰もが安心して暮らせるまちをつくる
施策	2	高齢者福祉の確立
小分類	1	長寿社会の基盤づくり
主要な施策	1	①高齢者の生きがいがいづくりの場と機会の充実
事務事業番号	005	事業開始年度 平成 8 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	保健福祉部	グループ名	社会福祉グループ
-----	-------	-------	----------

事務事業の概要 《Plan・Do》

目 的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	市民の敬老意識の高揚を図る。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成24年度の実績を具体的に記入してください)
	登別市に居住する74歳以上の市民(9月30日現在)を対象に、敬老行事を行なった町内会等に対してその一部として1人当たり1,000円を補助する。 ・平成24年度 84町内会 7,322人×1,000円=7,322,000円補助
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	高齢者を祝福するとともに、市民の敬老意識の高揚を図り、もって高齢者福祉の充実に努める。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)

事業費(財源内訳)の推移 《Plan・Do》

区分		単位	H23年度 決算	H24年度 決算	H25年度 当初予算	H26年度 見込	H27年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円	7,775	7,322	8,138	8,138	8,138
事業費 合計			7,775	7,322	8,138	8,138	8,138

指標の推移 《Check》

区分		単位	区分	23年度 実績	24年度 実績	25年度 目標	26年度 目標	27年度 目標
成果指標	①	人	目標値	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
			実績値	7,775	7,322			
	②		目標値					
			実績値					

比較		《Check》
平成24年度実施以前又は実施中に見られた課題、問題点等	左記の解決に向け行った取組や対策、工夫等	
敬老会補助金の対象者が年々増加している。	補助対象年齢の段階的な引き上げを行なう。 ※ その年度の9月30日に下記の年齢の人 ○平成22・23年度 73歳以上 ○平成24・25年度 74歳以上 ○平成26年度以降 75歳以上	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について			
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見 市民の意識高揚を図り、高齢者を祝福するための事業として妥当性は高い。
	<input type="checkbox"/>	② 民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である	
	<input type="checkbox"/>	③ 国、道、他団体等との連携や広域化が可能である	
	<input type="checkbox"/>	④ 国、道、民間等の事業と重複・類似している	
2. 事務事業の必要性について			
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	<input type="checkbox"/>	① 市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見 町内会等が敬老行事を行い、様々な人が交流を持つことによってお年寄りを敬う気持ちが醸成されており、必要性は高い。
	<input type="checkbox"/>	② 市民アンケートの結果から必要性が高い	
	<input type="checkbox"/>	③ 社会情勢、地域事情等から必要性が高い	
	<input checked="" type="radio"/>	④ 市民の大部分が関連することから必要性が高い	
3. 事務事業の効率性について			
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	<input type="checkbox"/>	① 低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見 平成18年度から対象年齢を段階的に引き上げており、平成26年度は75歳以上とする予定。
	<input type="checkbox"/>	② 市で実施するほうが民間委託より効率性が高い	
	<input checked="" type="radio"/>	③ 多額の経費や労力を要するがやむを得ない	
	<input type="checkbox"/>	④ 将来的に効率性を向上できる	
4. 事務事業の成果について			
目的を達成するための成果はあがっていますか？	<input type="checkbox"/>	① 成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見 町内会等が心をこめて敬老行事を開催し、食事や余興でもてなしや記念品を贈呈することで、敬老意識の高揚につながる。また、その費用を市が補助することは、町内会等の経費負担を軽減することができるため成果はあがっている。
	<input checked="" type="radio"/>	② 市民、団体等の声から成果を感じられる	
	<input type="checkbox"/>	③ 目に見える形で成果があがっている	
	<input type="checkbox"/>	④ 成果の把握は困難である	

①担当グループによる評価 《Check》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	敬老意識の高揚を図り高齢者福祉増進に寄与するものとして必要である。しかし、高齢化の進展により対象者が年々増加していく状況から、補助対象年齢の段階的な引き上げは、平成27年度以降も必要である。
-----------	----------------------	---

②行政評価会議による評価 《Check》

維持	備考
-----------	----

③総合的な評価(当該事務事業の方向性) 《Action》

維持	備考
-----------	----

〔評価区分〕

- ◆拡大 (事務事業の目的を達成するために事業の規模や経費の大幅な変更が必要な事業)
- ◆維持 (事業内容の根幹にかかわる部分については変更せず、不断の点検・検証による効率的な経費の活用や軽微な見直しを行い、継続的に実施する事業又は、事業計画等で予め年次的に実施する事業内容等を定めており、実施年度によって経費や実施個所等に変更が生じる事業)
- ◆改善 (当該事業の目的を達成するために、現状の手段や経費、事業の方向性等、事業の根幹に関わる部分について見直す事業)
- ◆休止 (暫定的に休止する事業)
- ◆廃止 (事業の開始当初から目指していた成果が得られたなど、目的が達成された事業)
- ◆終了 (事業の開始当初から予定していた事業期間が終了した事業)